

不整脈

徐脈 (失神やめまいの原因です)

副院長兼循環器内科部長

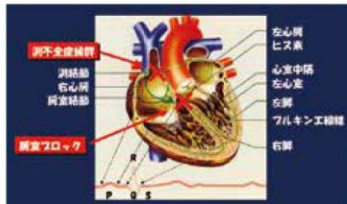
富田 威



前回から不整脈をテーマに病气や検査治療について紹介しています。

第1回目は脳梗塞と関係が深い心房細動でした。今回は脈が遅くなる不整脈について紹介します。

心臓は概ね1分間に60回から80回程度で規則正しく拍動しています。もちろん睡眠中は50回台に低下し、運動中は100回を越えます。初めに右心房の洞結節から電気的命令が発せられ、中継点の房室結節やヒス束を介して心室に伝わり、心臓が1回鼓動します。このような正常な脈拍数の範囲を下まわり、脈拍が少なくなりすぎて心臓から送り出される血液が低下することで症状をきたす状態を徐脈性不整脈と言います。



種類

徐脈の原因となる病気には拍動のリズムを作れなくなる①洞不全症候群と、リズムの伝達ができなくなる②房室ブロックがあります。

1. 洞不全症候群

心臓の脈拍数を決定する洞結節の障害で正常な拍動のリズムを作れなくなる病気です。いくつかタイプがありますが、代表的なタイプは前回話題とした心房細動に併発する洞不全症候群です。心房細動中は頻脈のため動悸が強く、頻脈停止時に一時心臓が止まるほどの著明な徐脈となり、めまいや失神を伴います。治療はペースメーカを体内に植込み、必要な心拍数を確保し、心房細動に対してお薬を使用します。

2. 房室ブロック

心房と心室間の唯一の連絡である房室結節・ヒス束・脚が障害され、電気的な連絡が途絶えることで生じます。こちらも治療はペースメーカを体内に植込み必要な心拍数を確保します。

症状

症状は脈拍が極端に遅くなることで生じます。脳血流が減ることで「めまい」「眼前闇黒感」「失神」を生じます。他全身の血液量が低下することで生じる倦怠感や息切れ、浮腫があります。脈拍数の異常や脈の乱れによる動悸や胸部不快感もあります。

治療

ペースメーカを体内に植込むことで一定以上の脈拍数を維持できるようになりまします。ペースメーカは電池を含む本体と心臓と本体とを結ぶリードから構成されます。

本体はリード経由で送られてくる自分の脈拍を常に監視し、脈拍が設定以下になる時自動的に電気刺激を心臓に送り、一定の脈拍数を確保します。

退院後の生活

ペースメーカ植込み後は通常の生活にもどることが出来ます。しかし、日常生活での注意点がいくつかあります。ペースメーカは強力な磁場や電気の影響を受けると、強い電磁波を発生する機器、例えば肩コリ治療器等の低周波治療器、電気風呂、医療用電気治療器等、高周波治療器、筋力増強用の電気機器は使用できません。空港等で使用されている金属探知器(設置型・携帯型)から発生する電磁



波がペースメーカの作動に影響を及ぼし、場合によっては失神等を起こすことがあります。また、これまでのペースメーカは植込み後MRI検査が受けられませんでした。最近2-3年の機器は可能となっており、それ以前のタイプは対応とはなっていません。自分のペースメーカが対応しているかは主治医に確認してください。さらに、最近のペースメーカは電話回線を介して、作動状況が病院に定期送信されます。機種が多くなっています(遠隔モニタリング)。何か異常が生じた場合、次の外来日を待たずに発見することが出来ます。当院でも遠隔モニタリングシステムを導入しております。

当院では機器にともなう心配事の相談に応じる看護師・臨床工学技師など専門スタッフも充実しており、安心してペースメーカ植込み後の生活が送れるような体制を整えております。他院で植え込まれた方も当院で検査と治療が可能ですのでご相談ください。



波がペースメーカの作動に影響を及ぼし、場合によっては失神等を